

《巻頭言》

第15回日本禁煙学会学術総会を終えて ～受動喫煙をなくし健康寿命を伸ばそう～

第15回日本禁煙学会学術総会実行委員長
大分大学医学部長・呼吸器・乳腺外科学講座教授
日本禁煙学会評議員

杉尾賢二

はじめに

第15回日本禁煙学会学術総会を2021年10月16日、17日の両日に、北野正剛大分大学長を大会長(写真1)として、大分市のJ:COMホルトホール大分(写真2)にて開催いたしました。大分では初めての開催でしたが、2021年7月下旬からの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の第5波の状況を鑑み、主要セッションは現地開催およびライブ配信とし、部会セミナー、一般演題、市民公開講座につきましては、学術集会初日から10月末までのオンデマンド配信といたしました。現地参加は180人程度でしたが、全国からの参加登録は800人を超えました。また、当日のライブ配信への視聴者は延べ1,200人となり、大変盛況のうちに大会を終了することができました。



写真1 北野正剛 大会長



写真2 会場のJ:COMホルトホール大分と看板

1. COVID-19 コロナ禍での大分大会

今大会の特徴は、①COVID-19 コロナ禍での開催であること、②大学主体の開催、アカデミアからの発信であること、③地方都市での開催で、禁煙活動が自治体と密接であることの3点です。

まず、本学会の開催形式につきましては、準備のためには3か月前には決定する必要がありました。その頃、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定されましたが、COVID-19の第5波に入り新規感染者数が急激に増加している頃でしたので、本当に開催できるのであろうか、と多くの国民が思っていた頃です。学会については、医療者はワクチン接種が終了していることと、各種イベントの開催基準が示されており、ハイブリッド開催であればなんとかできるであろうと考え、現地開催は主要セッションとランチョンセミナーのみでライブ配信も行い、一般演題や各部門セミナー、市民公

開講座などはオンデマンド配信とすることと決定しました。大会の現地開催にあたりましては、国や大分県の指導に従った感染対策を十分に行い、安全な学会運営を心掛け開催いたしました。

2. 学術総会のテーマ

大分大会のテーマは、「受動喫煙をなくし健康寿命を伸ばそう」、副題として－COVID-19から得られたこと－としました。2020年に全世界を襲ったCOVID-19パンデミックによって私たちの日常生活は大きく変わり、医学・医療体制の種々の変革を余儀なくされました。もとよりタバコ健康被害は明らかですが、今回のCOVID-19の疫学調査からは、喫煙者における感染率や死亡率の上昇が明らかとなっています。



写真3 作田 学 理事長



写真4 特別講演 古川俊治氏



写真5 特別講演 岡本光樹氏

3. 理事長講演と特別講演

理事長講演(作田学理事長)(写真3)では、日本の喫煙率などの現状から、チャンピックス問題、新型タバコ、タバコ産業の寄付金、受動喫煙防止法などの問題を取り上げられました。

大会長指定特別講演Ⅰの古川俊治氏(慶應義塾大学法科大学院・医学部外科/参議院議員)(写真4)は、「COVID-19と医学研究～喫煙の影響に関する議論も含めて～」のタイトルで、COVID-19に関する数々の重要な論文を網羅し、その研究成果と問題点を見事なまでに解説していただきました。大会長指定特別講演Ⅱの岡本光樹氏(弁護士/前東京都議会議員)(写真5)は、「受動喫煙ゼロの環境をつくるために～改正健康増進法および各地の条例を踏まえて～」のタイトルで、東京都受動喫煙防止条例の成立に携わった経験を基に各地の条例の状況と問題点、喫煙所の問題、近隣住宅受動喫煙問題などを解説されました。いずれの講演も、COVID-19パンデミックから得られた多くの新たな知見を提示されました。

海外特別講演のStanton A. Glantz博士(University of California)は、「Heated tobacco products: A new front in the tobacco wars」のタイトルで電子タバコの問題を中心に、前もって収録した動画で発表を行っていただきました。発表後は直接webで参加いただき、作田理事長の司会のもとでDiscussionを行い、大変有意義な講演となりました。

4. 大分県内の取り組みを自治体と企業の立場から

大会長の北野学長が特に力を入れて企画したのが、特別企画「大分県および大分県自治体と企業からの発信」です。

大分大学では、2007年から医学部キャンパス全面禁煙、その後全学部キャンパスを全面禁煙とし、

無煙環境作りを推進してきました。大分県は大分大学と密に連携し、保健医療福祉関係団体、経済団体、メディア、行政等で構成する「健康寿命日本一おおい創造会議」(議長:北野正剛)を2016年に発足し、健康寿命の延伸を図ってきています。このように禁煙および健康に関して、行政と関係団体が一体となり大分県から発信していく企画で、無煙環境推進のための対策と成果をそれぞれの視点から報告していただきました。

・特別企画Ⅰ 禁煙による健康作りⅠ 大分県からの発信

大分県福祉保健部の藤内修二氏は、健康寿命日本一をめざす大分県にとって喫煙対策は重要な課題であり、大分大学と大分県とで構成された「健康寿命日本一おおい創造会議」において受動喫煙対策推進アクションプランを発表し、受動喫煙のない大分県を目指していることを、種々の成果と共に報告されました。

・特別企画Ⅱ 禁煙による健康作りⅡ 大分県自治体と企業からの発信

大分市は、「いきいき健康大分市民21」に基づいて、市民、飲食店、企業などに対し改正健康増進法の周知を行い、禁煙と受動喫煙防止対策の推進に取り組んでいることを報告されました。佐伯市は、市役所における敷地内の全面禁煙までの取り組みの経緯と問題点、そして全面禁煙後の課題などについて報告されました。杵築市では、働き盛り世代への健康づくりを職域と連携して事業所への健康教育や研修会を実施していること、敷地内禁煙を進めるための健康教育の実施などの今後の対策についても発表されました。

次に、大分県を代表する3つの企業から、それぞれの取り組みと成果を発表していただきました。大分県信用組合は、国保特定健診の受診率向上を主目的に、県内各市町村と共同開発した「健康診

査を受診した住民へ優遇金利を提供する健康定期」の取扱いとこれを原資にした融資ファンドを創設し、健康をテーマとした資金循環のシステムを構築したことなどを発表されました。大分県タクシー協会からは、2007年に全国初のタクシー全車禁煙を実施したその経緯と苦労を発表され、禁煙タクシー訴訟の判決で、「タクシーの利用時間を考えると全面禁煙にしても問題がなく、禁煙を求める利用者側の視点からも全面禁煙化が望ましい」と国への対応を示唆されたことで、全国に全車両禁煙が広まり5年後に全国で実施されたことが報告されました。ソニー・太陽株式会社からは、喫煙率低下のための対応、受動喫煙防止を目的に喫煙対策と職場環境改善、敷地内全面禁煙を2020年4月に達成した経緯などが報告されました。

5. アカデミアからの発信

今回の学会のもう1つの特徴は、大学のアカデミアからの発信という点です。大学の専門性を生かした5つのシンポジウム、「喫煙と呼吸器疾患～withコロナ時代の禁煙対策～」 「喫煙と循環器疾患」 「各科領域における禁煙治療のup to date」 「新型タバコの真実と禁煙活動の将来」 「喫煙とがん」を企画し、各々の専門分野の先生方に発表いただきました。

2つのワークショップは、「禁煙遠隔診療の現状と課題」 「教育現場における無煙環境推進活動」のテーマで、禁煙対策についての現状や教育現場での課題を討論していただきました。いずれのセッションも、大変示唆に富んだ発表内容で、質疑も活発に行われました。

6. 繁田正子賞セッション

本年は、5題が選考対象となり、発表の後、別室で委員の先生方で選考が行われました。その結果、最優秀賞に三好希帆氏(京都女子大学)、優秀賞に近藤有里子氏(京都府立医科大学)と近藤宏樹氏(三豊総合病院)が受賞となり、閉会式で、発表と表彰が行われました。

7. オンデマンド配信

一般演題、各部会セミナー、禁煙治療セミナー「受動喫煙被害者の支援」、市民公開講座「禁煙による健康寿命延伸を目指して」は、オンデマンド配信を行いました。一般演題は38題で、そのうち草



写真6 大会終了後の大会長と理事とともに、実行委員会のメンバー

の根運動セッションに3題がありました。

- ・看護部会は、ナース委員会企画として「公開レッスン 禁煙支援の実際」が企画され、1部は、防衛医科大学校看護学科の瀬在泉先生の「初めの一步！振り返りは看護力をあげる」の講演、2部は、10名の看護専門の方々による「禁煙ナースのための模擬患者を活用した実践版支援」が配信されました。
- ・歯科部会は、「加熱式タバコの健康影響のエビデンスー歯科学研究の偏りがプライマリヘルスケア現場に及ぼす影響への懸念」のテーマで、2名の先生による講演の配信が行われました。
- ・薬剤師部会は、「薬剤師が活躍するCOVID-19予防・治療・禁煙支援活動」のテーマのもと、3名の先生方による講演が配信されました。

おわりに(写真6)

コロナ禍の中でのハイブリッド(現地開催+ライブおよびオンデマンド配信)での開催は、全国どこからでも気軽に参加できる利便性がある半面、現地でのface to faceの発表・討論ができないことの物足りなさは否めません。主催する側からは、いかに多くの参加登録をしてもらうかが大会の成功の一つの鍵になります。

今回の学会開催に際しましては、学会の役員の多くの先生方、大分県の関係者そして大分大学の関係者の方々にご尽力ご指導いただき、また、多くの企業と大分大学の関連施設にご支援いただきましたことをここに感謝申し上げます。この学会を機に、無煙環境推進の意義が全国に一層浸透していくことを祈っております。